TOPICS 1 | 最新情報

デジタルアーカイブで、長井の歴史と美術をめぐる旅へ

約600点の作品を公開！
（作品は順次追加していく予定です）
公式サイトが
2025年2月に登場！

長井市では2024年12月、市所有の歴史資料や美術品といった文化財をインターネット上で見ることができるWebサイト『長井市デジタルアーカイブ』を公開しました。

第1弾として、芳文庫ギャラリーの近代彫刻コレクション、菊地隆知版画作品の一部、合わせて約600点を公開しています。

長井市の歴史文化・芸術文化を、誰でも、いつでも、学び、触れることができますので、ぜひご利用ください。

今後は市所有文化財のほか、平成版長井市史に関連した資料を、「市史ダイジェスト」としてデジタルアーカイブに公開していきます。
今後の更新にも、ぜひ、ご期待ください。

POINT 01 検索機能が充実

キーワードや分類別、作家名からも作品を探すことができます

POINT 02 「おすすめコンテンツ」を楽しむ

デジタルアーカイブでは、さまざまなテーマで作成した「おすすめコンテンツ」を見ることができます

POINT 03 拡大して見れる

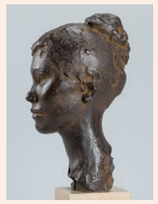
拡大ボタンをクリックして、細部をじっくり見ることも

菊地隆知
≪街B≫

おすすめコンテンツ

芳文庫ギャラリーコレクション

かつて近隣の印刷業を一手に担っていた芳文社の代表であり、熱心な美術愛好家でもあった故・加藤嘉志朗氏が蒐集した、近代彫刻を中心としたコレクションです。オーギュスト・ロダンをはじめとする海外作家の作品や、佐藤忠良や朝倉響子といった20世紀を代表する国内作家の作品、新海竹太郎、吾妻兼治郎といった山形県の近代美術を語るうえでは欠かせない作家も網羅されています。



佐藤忠良≪チコ≫

菊地隆知コレクションⅠ

長井市出身の版画家であり、左手一本で一層の熱意を持って作品を作り続けた不屈の作家菊地隆知。2024年12月現在で、約500点の作品をデジタルアーカイブにて公開しています。今回はその中から、菊地隆知の作品世界の幅広さが楽しめるよう、さまざまなジャンルから作品を選抜しました。ぜひお気に入りを探してみてください。

菊地隆知≪長井の山≫

TOPICS 2

長井市史が完成しました

長井市史は、ずばり長井の歴史をまとめた本です。昭和版長井市史全4巻と、市制60周年を記念し作られた平成版長井市史全6巻からなります。石で道具を作って暮らした原始時代からデジタル社会へと進む令和の長井までの、2万年にも及ぶ長井の歩みがまとめられています。おすすめの読み方は、「読みたい所から読む」です。目次を眺めて気になるワードがあれば、ぜひ、そこから長井の歴史物語に触れてみてください。

詳しくはこちら

TOPICS 3

文化財保存活用地域計画を作成中です

本計画は、「地域の宝」である文化財を「次の世代」に確実に伝えていくための取り組みをまとめたものです。これまでの文化財に関係する計画との最大の違いは、「未指定文化財」に触れた点です。長井市内には国・県・市指定文化財が合わせて100件を数えます。本計画をもって市では、指定・未指定の枠を超えて、文化財を守り伝える取り組みを進めていきます。

- 計画案の作成
- ↓ 計画案の公表
- ↓ 意見の募集（パブリックコメント）
  市民の皆さんのご意見をお寄せください
- → 意見の概要・市の考え方の公表
- ↓ 市議会
- ↓ 文化庁認定

問い合わせ先／長井市観光文化交流課文化交流室　TEL.0238(82)8017　✉bunka@city.nagai.yamagata.jp

みんなが　しあわせに暮らせる長井

あやめRepo

発行／山形県長井市　問い合わせ／長井市総合政策課
tel.0238-82-8000 https://www.city.nagai.yamagata.jp

VEGETABLE OIL INK

紡ぐ、未来へ 長井市制70周年

令和7年（2025年）3月号
vol.84

CONTENTS

表紙ページ
・芸術文化から見る「長井市クロニクル」
中ページ
・知ってた?こんなにスゴイ 長井市ゆかりの作家たち
・長井の芸術文化 伝える人・創る人
・おすすめ!文化体験スポット
裏表紙ページ
・デジタルアーカイブで長井の歴史と美術をめぐる旅へ
・長井市史が完成しました
・文化財保存活用地域計画を作成中です

長沼孝三
≪凶器を持たすな≫

知る　触れる　探す

長井の芸術文化

西山と東山に囲まれ、最上川とその支流が流れる長井市。豊かな自然環境のもとで、特色ある文化が育まれてきました。画家や彫刻家をはじめ、多くの芸術家を輩出しているこの地では、彼らが残した数々の作品が文化の薫りを感じさせてくれます。作品を通して、長井市の魅力に触れながら、新しい発見をぜひ体験してみませんか？

渋谷円吉≪長井十景其ノ二祝瓶山≫

菊地隆知≪最上川A≫

芸術文化から見る「長井市クロニクル」

皆さんの家の近所にも遺跡があるかも

最上川舟運によって、長井の芸術・文化が大きく花開いた時代

長井市ゆかりの作家が次々と誕生

長井の芸術や文化を伝える施設が数多く設立、歴史・芸術文化の継承が盛んに

旧石器・縄文	古墳・飛鳥	平安	鎌倉	戦国	安土桃山	江戸	明治	大正	昭和	平成	令和
約2万年前	5千年前	6世紀	9世紀	14～15世紀	1598	1601	1654	1694	1791	1833	1852
長者屋敷遺跡でナイフ型石器が使われる	長者屋敷遺跡で四本柱が建てられる	河井山古墳の築造	酒町遺跡、蛇崩窯の営み	長井荘成立	伊達氏による置賜支配	直江兼続による朝日軍道の開削	上杉景勝が会津より米沢に移封	栃木堰の開削	西村久左衛門が最上川黒瀧付近を開削	最上川舟運が上流域まで及ぶ	米沢藩が養蚕を奨励する

1855	1876	1878	1881	1893	1884	1889	1897	1908	1912	1914	1916	1917	1928	1929	1930	1936	1939	1954	1955	1974	1993	2005	2019
東講商人鑑が刊行される	山形県誕生	西置賜郡役所の設置	池田月潭、東京神田に生まれる	高橋都哉、草岡に生まれる	菅原白龍が内国絵画共進会で褒章を受ける	長井町・長井村・西根村・平野村・豊田村・伊佐沢村の成立	長井紬の全盛期	長沼孝三、丸大扇屋の三男として生まれる	渋谷円吉、寺泉に生まれる	長井軽便線が長井まで開通	宮公園（あやめ公園）開園	月潭画伯揮毫会が開催される	長井大火が発生	高橋都哉、日本美術院展初入選	長井公立病院設立	菊地隆知、長井に生まれる	米坂線全線開通	長沼孝三の「インテリゲンチャ」が帝展に初入選	合併により長井市誕生	渋谷円吉、国画会に初出品	長井市民文化会館開館	長沼孝三彫塑館開館	古代の丘資料館開館	菊地隆知「SIMA3」棟方志功賞受賞	旧長井小学校第一校舎、学びと交流の施設としてリニューアルオープン

渋谷円吉

菊地隆知

知ってた？こんなにスゴイ 長井市ゆかりの作家たち

郷土美術を代表する6名の作家とその作品を紹介

FILE 01 菅原白龍

すがわら はくりゅう
［南画家］1833-1898

菅原白龍像（部分）寺崎廣業作

1833 時庭に生まれる。
1849 上京。佐藤竹阜に師事、その後、松前藩の熊坂適山に入門。
1871 奥原晴湖の知遇を得、木戸孝允、久世竹亭らに交わる。
1877 第一回内国勧業博覧会に出品した「浅絳の山水」が褒状を受ける。
1885 日本橋に隠居。日橋隠士を号す。第一回鑑画会大会に出品。
1889 寺崎廣業など青年画家の育成に尽力。
1897 岡倉天心の知遇を得て、日本絵画協会審査員となる。
1898 逝去。

《山水図》

明治期に日本的南画の境地を開拓した巨匠

長井時庭にある神職の家に生まれる。16歳の頃に家出して江戸に行き熊坂適山らに師事。以降、長井と江戸を往復しながら諸国を巡り、各地の画人、文人たちと交流した。中国山水画の模倣から脱し写生を重視した日本的南画を模索した。岡倉天心との交流も深く、晩年に日本絵画協会展において南画会から唯一の審査員として抜擢されている。

FILE 02 池田月潭

いけだ げったん
［日本画家］1881–1923

《富士の巻狩り図屏風》

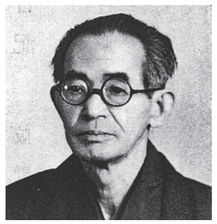
「床の間の日用品」としての作品を数多く残した職業絵師

東京神田に生まれる。歴史画の大家・村田丹陵に師事。歴史画を得意として、信州・東北を中心に多くの画会を開き、3000点を超える作品を残した。長井には長く滞在しており、丸大扇屋の借家を拠点として活動していた。日本美術協会主催展覧会での入賞や、大正時代の日本絵画評価表に著名日本画家らと並んで記される等の高い評価を受ける。

1881 東京市神田区に生まれる。本名は龍治。
1892 父の故郷・庄内に共に帰省。三年間、田中静居に南宋画を学ぶ。
1895 東京市下谷区に移り、村田丹陵に師事する。
1899 村田丹陵から雅号「月潭」を受ける。
1903 「能楽羽衣図」が日本美術協会主催美術展覧会で褒状を受ける。
1914 この年からほぼ4年間、長井宮十日町に住み活発に画会を開く。
1921 「人物画」が日本研美会主催全国絵画実力調査会で名誉一等金賞牌を受ける。
1923 関東大震災で負傷し療養中長井にて逝去。

FILE 03 髙橋都哉

たかはし くにや
［日本画家］1893–1965



《鯉》

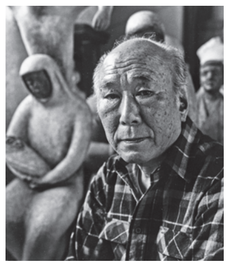
戦争に翻弄されながらも郷里で珠玉の作品を生んだ日本画家

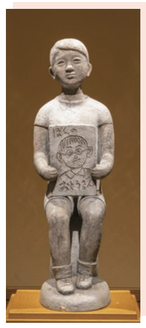
長井草岡に生まれる。農家に生まれながら画業を志し、27歳の年に上京。小林古径に師事し、内弟子として、兄弟弟子だった奥村土牛とともに研鑽を積む。1928年日本美術院展に初入選。以後、連続入選し、院友となる。以降も同展で活躍したが、戦後の食糧難や情勢不安から逃れるため帰郷してからは郷土に根を下ろして地道な制作を続けた。

1893 草岡に生まれる。
1920 画家を志し上京。木島柳鴎に師事。
1926 小林古径に師事、内弟子となる。
1930 「木蓮と山吹」が入選。その後連続入選し、院友となる。
1937 満州国で官使をしていた弟を訪ね、そこを拠点にし、長く満州を旅した。
1945 妻子が疎開していた故郷 草岡に帰省。その後、故郷に根を下ろす。
1951 山形県総合美術展の審査で山形を訪れた奥村土牛と再会する。
1965 逝去。

FILE 04 長沼孝三

ながぬま こうぞう
［彫刻家］1908-1993




《ぼくのおとうさん》

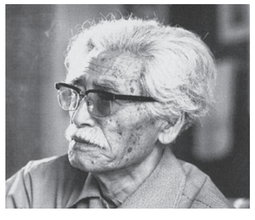
1908 長井町丸大扇屋にて十代目長沼忠兵衛の三男として生まれる。
1926 東京美術学校彫刻科入学。
1930 杉浦非水率いる商業デザインの研究グループ≪七人社≫に入り活躍。
1931 帝展（現・日展）に「インテリゲンチャ」初入選。
1941 聖戦美術展で「英霊」陸軍大臣賞受賞。
1944 軍需生産美術推進隊に入隊。
1949 上野駅前広場に野外彫刻「愛の女神」を制作（戦後初の野外彫刻の一つ）。
1993 逝去。

郷土を愛し、激動の時代に日本的表現を希求し続けた彫刻家

十日町の呉服商・丸大扇屋に生まれる。東京美術学校卒業の年に帝展に入選を果たし、新進気鋭の彫刻家と評され、戦後は日展を中心に活躍。その制作は一貫して西洋の模倣から脱した日本的彫刻表現を希求するものであり、その柔らかく丸みを帯びた造形によって、自然と融和した日本人の在り方を示した。長井市名誉市民。

FILE 05 渋谷円吉

しぶや えんきち
［洋画家］1912–2004



《長井十景其ノ六・久保桜ノ図》

農家から苦難を乗り越え人生を絵にささげた画家

長井寺泉の農家に生まれる。幼少時から画才を認められるも美術の道へ進むことは許されず、母を助け苦難の生活を送る。終戦後、戦地から帰郷し本格的に画業に取り組む。1954年、米沢出身の洋画家・土田文雄に師事し、1955年以降、国画会展に出品。フランスや北海道を旅し、様々に画風を変えながら山形市を拠点に制作を続けた。

1912 寺泉に生まれる。
1945 終戦後、戦地から長井市に帰還。生活のため戦没者の肖像画を描く。
1954 国画会会員・土田文雄に師事。
1955 第29回国展に出品、入選。以来毎回入選。
1963 国画会会友に推挙され無鑑査となる。
1972 外遊（南フランス）。
1976 国画会会員に推挙（国展審査員）。この間各地に於いて個展十数回。
2004 逝去。

FILE 06 菊地隆知

きくち りゅうち
［木版画家］1930-2018

《立春すぎ》

半身不随などの苦難を乗り越え多くの作品を残した不屈の版画家

長井に生まれる。平塚運一に師事。終戦後帰郷し教師の道へ。19歳の時、中学校での勤務中に事故で頭部を負傷し、それがもとで31歳の時に右半身不随となるが、以後は左手で制作を続けた。東北現代美術協会、日本板画院等で活躍。最上川や古民家等をモチーフに郷土の風景版画を制作したほか、「俳画」に取り組み多くの作品を残した。

1930 長井生まれ。
1949 中学校で勤務中、陸上競技の円盤が頭部に当たる事故に遭う。
1961 頭部負傷の後遺症のため右半身不随。以後左手のみで制作を開始。
1968 日本板画院会員に。後に、同院の院展審査委員長に就任。
1981 心筋梗塞で入院。入院中に、俳誌「彫肩」を編集刊行。
2001 齋藤茂吉文化賞を受賞。
2005 棟方志功賞（日本板画院展最高賞）を「SIMA3」で受賞。
2018 逝去。

作品は「長井市デジタルアーカイブ」でも閲覧できます（詳しくは裏表紙参照）

長井の芸術文化 伝える人・創る人

インタビュー01 「長井でしか生まれないもの」を伝え 多くの人に活力を与えられる活動を

（一財）文教の杜ながい
事務局長 **後藤拓朗**さん

東北芸術工科大学で絵画を学ぶ。2021年から現職。作家として絵画制作、発表活動も行っている。長井市在住。

「文教の杜ながい」の役割は、長井の特色ある歴史や芸術文化を紹介しながら未来に残していくことです。未来に残していくためには、施設や収蔵作品が、現代の自分たちにとって大事なものだと多くの人が実感することが大切です。そのために、「文教の杜ながい」を生きた場所にすることが重要だと考え、様々な活用方法に挑戦しながら管理運営を行っています。

芸術文化やアートといえば都会が中心と思われがちですが、長井で生まれる芸術作品や文化は、他では実現できないものだと誇りを持っています。今後はより積極的に、「作る・創造する」ことに力を入れていきたいと考えています。講座やワークショップを増やし、市民の皆さんとの交流を通して、多くの人がまちや歴史文化に楽しんで関わるきっかけを作っていきたいと思います。先行きの見えない時代の中では創造性がとても重要です。それはまさに芸術文化が担ってきた部分です。

「自分にしかできないもの、ここでしか生まれないものは何か」を考えることは、長井市に活力を生み出していくと思っています。

山のホームセンター トークイベント（旧丸大扇屋にて）

過去の企画展
（文教の杜ながいHPより）

デッサン教室（旧丸大扇屋にて）

小桜館アートナイト

インタビュー02 長井ならではの歴史や文化を 再解釈し新しいものを生み出していきたい

アメフラシ
メンバー **松崎綾子**さん

千葉県出身。2016年から3年間長井市地域おこし協力隊として活動。現在はKosyauを拠点に作家活動を行う。東北芸術工科大学非常勤講師も務める。長井市在住。

［アメフラシ］
Kosyau（長井市十日町、旧芳文社工場跡地）を拠点に活動。金井神ほうきや草鞋など、長井の伝統文化を継承する新しい取り組みを行っている。12月から東京で展覧会に参加予定。

長井には、山や川、田んぼなどの風景、お祭り文化や地域のつながりといった日本の原風景が残っているところに魅力を感じています。一方で、少子化や失われつつある伝統産業など、様々な問題に直面しているまちでもあると思います。そうした状況を肌で感じる中で、そこにアートがどう関わっていけるのかを考えながら、作品づくりやアメフラシの活動をしています。

生活や暮らしと絡めながらそこに何かを問いかける、喜びを感じる瞬間を形にする、そういった作品づくりの中で、冬の厳しさや夏の暑さなど季節を実感できる長井では、作品のテーマが考えやすいです。長井にしかない歴史や伝統、文化を再解釈して、新しいものを生み出していきたいです。昔から暮らしている人にとっては当たり前で、時には古臭いと感じることが、私にとっては新鮮で衝撃的だったりします。その衝撃や感動、生活の中に息づいている「ここにしかないもの」を形にして、長井でしか生み出すことができない作品を創り出していきたいです。そして、たくさんの人に見てもらいたいです。

アメフラシのメンバー

制作風景

金井神ほうきの制作

＼おすすめ！／ 文化体験スポット

長井をめぐれば、縄文から現代までいろんな芸術文化が楽しめる

勾玉作りや土器作りもできる
▶古代の丘資料館

長井市内の遺跡から出土した縄文時代の資料（土器・石器など）を中心に展示しています。見学だけではなく、様々な体験学習を通じて、長井の縄文時代について楽しく学ぶことができます。

個性的な企画展で長井の芸術を紹介
▶文教の杜ながい

江戸時代から続いてきた商家の店屋敷である旧丸大扇屋の建物群、1978年に建てられた旧西置賜郡役所（通称「小桜館」）、丸大扇屋に生まれ戦前から戦後にかけて活躍した彫刻家・長沼孝三の作品を展示する長沼孝三彫塑館の3施設からなるエリアです。芸術・歴史に関する様々な展示やワークショップを開催しています。

コンサートや講演会など幅広く開催
▶長井市民文化会館

座席数約800席のホールと、大小さまざまな会議室を有する文化施設です。コンサート・講演会・展示会といった主催事業のほか、カルチャースクールも開催しています。また、貸館も行っています。

昭和の薫り漂う「学び」スペース
▶旧長井小学校第一校舎

1933年建築の2階建て木造校舎で、貴重な歴史的建造物として国の登録有形文化財に登録されました。長井の歴史や文化を紹介する展示室があるほか、仕事や読書などに活用できるフリースペース、ランチやスイーツが楽しめるカフェが揃います。